

# 「語源の話」

群馬県立女子大学 北川 和秀

語源を考える上で必要なこと

漢字表記にはとらわれない。  
 できるだけ古い時代の語形・語義にさかのぼって考える。  
 歴史的仮名遣い(旧かな)で考える。  
 ローマ字で考えてみる。  
 同種・同類の例を探してみる。

## 一、導入一(地名起源説話)

・日本武尊の曰はく、「蝦夷の凶しき首、咸に其の辜に伏ひぬ。唯信濃国  
 ・越国のみ、頗未だ化に從はず」とのたまふ。則ち甲斐より北、武蔵  
 ・上野を転歴りて、西碓日坂に遠ります。時に日本武尊、毎に弟橘媛を顧  
 びたまふ情有します。故、碓日嶺に登りて、東南を望りて三たび歎きて曰は  
 く、「吾孀はや」とのたまふ。故因りて山の東の諸国を号けて、吾孀国と曰  
 ぶ。 日本書紀景行四〇年は歳

## 二、導入二(さけのさかな)

「さかな」の漢字表記

ア、魚  
イ、肴

「な」は本来おかず(副食物)のこと。魚、肉、野菜など、すべて「な」。

「さかな」は「さか(酒)+な(副食物)」。魚は、美称の「ま(真)」を付けて「ま  
 な」ともいう。「まないた」

魚は「うを」といった。魚を「さかな」と言うようになるのは江戸時代から。  
 ナマの魚を「うお」、調理した魚を「さかな」といって区別する地方もある。

## 三、露出形と被覆形

【単独だと工段、熟語になるとア段】

さけ(酒) さかぐら(酒蔵) さかだる(酒樽)

さかづき(酒盃) さかな(肴)

さかば(酒場) さかもり(酒盛り)

さかや(酒屋)

つめ(爪) つまさき(爪先) つまづく(爪突く)

つまはじき(爪弾き) つまびき(爪弾き)

つまむ(摘む) つまようじ(爪楊枝)

あめ(雨) あまおと(雨音) あまがえる(雨蛙)

あまがさ(雨傘) あまぐ(雨具)

あまごい(雨乞い) あまだれ(雨垂れ)

あまど(雨戸) あまもり(雨漏り)

かね(金) かなあみ(金網) かながた(金型)

かなぐ(金具) かなしばり(金縛り)

かなづち(金槌) かなぼう(金棒)

かなもの(金物)

め(目) まつげ(目つ毛) まなこ(目な子)

まなざし(目な差し) まなじり(目な尻)

まばたき(目叩き) まばゆい(目映い)

まぶた(目蓋) まへ(前/ま)目(+)へ(方)

【単独だとイ段、熟語になるとオ段】

き(木) こかげ(木陰) こがらし(木枯)

こぐち(木口) こずえ(木末)

こだち(木立) こだま(木霊)

このは(木の葉) こもれび(木漏れ日)

ひ(火) ほてる(火照る) ほのほ(炎/火の穂)

\*「穂」は「秀」。稲穂、波の穂、槍の穂先、伊香保、穂高

#### 四、色の名前

古代の基本色は「あか」「くろ」「しろ」「あを」の四色。

- ・赤・黒は明暗。「あか」は「明し」、「くろ」は「暗し」
- ・白・青は顕漠か。「しろ」は「いちしろし」(著)

「あを」は未詳。あるいは「藍(あるいは)」と同語源か。

植物に由来する色名が多い。

- ・あかね(赤根)、あさぎ(浅葱)、ある(藍)、くれなゐ(呉の藍)、むらさき(紫ノ群咲き)、やまぶき(山吹)

「みどり」は、本来は「萌え出たばかりの若葉」の意。

#### 五、撥音化して次の音が濁音になった例

- ・すみすり(墨磨り) → スズリ → すずり(硯)
- ・ふみて(文手) → フンデ → ふで(筆)
- ・のみと(飲み門) → ノンド → のど(喉)

#### 六、漢語起源の言葉

漢語からできた和語

- ・銭(セン) ぜに(、馬(マ) むま(、梅(メイ) むめ(、鬼(オン) 隠( おに(、縁(エン) えにし(

訓と間違えそうな音

- ・菊(キク)、駅(エキ)

#### 七、単語家族の例

いき(息)、いきる(生きる)、いこぶ(憩ぶ)、なげき(嘆きノ長+息)

おと(弟・乙)、おとうと(弟)、おとひと(おとす)落(おとる)劣(おとろへ)衰(

\*「乙女」は「をとめ」なので、これとは別。「をとこ(男)」「をと」と同じく、「年若い」の意。

いかめし(厳)、いかづち(雷)、いかる(怒)、いかほ(地名)

みづ(水)、みなかみ(水な上)、みなと(港ノ水な門)、みなもと(源ノ水な元)、いづみ(泉ノ出づ水)

やす(瘦)、やさし(優・易)

\*世の中を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば(山上憶良)

#### 八、地名表記(近江・上野について)

「近江」はどうして「おうみ」と訓むのか? 「おうみ」の意味は?

「うみ」という語は、海水の海だけでなく、淡水のうみ(湖)も含んだ。

淡水の「うみ」のみを指す語には、「みづうみ」または「あはうみ(淡海)」がある。海水の「うみ」は「しほうみ(塩海)」。

現在の滋賀県は、日本最大の湖である琵琶湖があるので、淡海国といった。よみは「あはうみ」「あふみ」。

現在の静岡県西部は浜名湖があるので、「遠淡海」とほつあふみ(の国)といった。今の滋賀県は「近淡海(ちかつあふみ)の国。遠近は都から見て。

大宝元年(七〇一)頃、国名は漢字二字と定められた。「近淡海」「遠淡海」はともに漢字三字になってしまったので、「淡海」を「江」と置き換え、「近江」「遠江」と改めた。しかし、よみは従来通り、「ちかつあふみ」とほつあふみ「のまま。

両国を区別するのに、遠江を「とほつあふみ」と言えば、近江の方は、わざわざ「ちかつあふみ」と言う必要はない。そこで、近江は単に「あふみ」と言うようになった。

「上野」はどうして「こうづけ」と訓むのか? 「こうづけ」の意味は? 現在の群馬県・栃木県のあたりは、古くは「毛野国」(けのくに)「といった。この国を二つに分け、「上毛野(かみつけの)」「下毛野(しもつけの)と呼んだ。都に近い方が「上」、遠い方が「下」。

この両国名は、漢字二文字化の折、中間の「毛」の字を切り捨てて、「上野」「下野」とした。よみは従来通り「かみつけの」「しもつけの」のまま。

やがて、時代が下るにつれて、「かみつけの」「かみつけ」「かんづけ」「かうづけ」「こうづけ」と変化していった。